

## 序 文

私の願いは「犬や猫の外耳炎・中耳炎・内耳炎」を撲滅することです。耳道入口が膿で溢れたり耳介が発赤したり耳道閉塞している犬に出会うたびに、苦しい日々を過ごしてきた動物の痛みを思い胸が痛みます。そんな動物たちを助けることができます。ビデオオトスコープ療法により多くの外耳炎は治ります。鼓膜を治療すればほとんどの外耳炎は治ります。幼犬時に鼓膜を精査し鼓膜外側面凹部の毛のタイプを知り対処すれば、外耳炎を未然に防ぐことができるのです。

外耳炎から中耳炎そして内耳炎へと炎症が波及するまでには多くの時間がかかります。外耳炎の段階で撲滅することができれば、炎症は中耳や内耳には波及しないで済みます。外耳炎は鼓膜の病気で、鼓膜を精査し鼓膜の異常を改善すれば耳炎は治ります。

犬や猫は小さい人ではありません。犬や猫は全身が毛で覆われた生き物です。毛を無視しては治療が成り立ちません。鼓膜外側面凹部には毛が生えていたり、毛が落下していたりして分泌物が固着しています。分泌物は微生物の温床になっています。そこを清浄化し適切な薬剤を投与すると耳炎は終息します。鼓膜と耳道を清浄化すると組織本来の修復力で治癒します。

耳炎は細菌との戦いでもあります。なかでも *Staphylococcus pseudintermedius* と緑膿菌は2大横綱です。緑膿菌はビデオオトスコープ療法とアミカシンで制圧可能です。しかし *Staphylococcus pseudintermedius* は少し油断するとたちまち耐性を獲得してしまいます。とにかく早く的確に制圧する必要があります。

筆者はビデオオトスコープ療法を延べ5000回以上行いました。当初は治療間隔に悩みましたが、難治性のものほど間隔は短い方が効果的です。耳治療はビデオオトスコープ療法が最適です。ビデオオトスコープ療法を行っても、通常の洗浄を組み合わせると治癒は望めません。

ビデオオトスコープ療法は熟練が必要です。麻酔が必要です。しかし通常の洗浄とは全く異なります。たった1回のビデオオトスコープ療法で大きな成果を得ることができます。

高温多湿の日本の気候は、鼓膜外側面凹部の微生物を繁殖させます。耳炎はさらに増加します。ビデオオトスコープ療法は、日本で生まれ先生方の技術で発展し、動物たちに恩恵をもたらします。

2015年9月  
臼井玲子